

はつらつ

No.109

中央地区八日市場イ

太田涼介さん (26歳)



頼られる存在を目指す

大学卒業を目前に家業の葬儀会社を継ぐ決心を固めました。専門学校を経て、働き始めて2年目。もともと人と接することが好きで、今まで築いた自慢の人間関係で、常にアンテナを立てて新しい情報を仕入れるよう努めています。

葬儀の仕事は、しきたりや慣習など、宗派や地域ごとにさまざまな違いがあり、覚えることがたくさんあって大変です。ですが「温故知新」、先代の伝統的なやり方、自分で仕入れた情報を生かした新しいやり方、それぞれの良さを取り入れて、将来は自分が会社の顔となっていきたいです。

プライベートでは、先月に挙式をし、今年は節目の年でした。結婚して責任感がますます高まりましたが、自身のステップアップに向けて決意する良いタイミングです。来年は、仕事、プライベートの両面で責任感を感じながらも、周囲から頼られる存在になることを目指します。

私のイッピン

No.9

野田地区野手
熱田成治さん (69歳)



広く楽しみを伝えたい “そば道”

定年を前に「好きなそばを自分で打てたら」と初めて11年。研さんに努め、全国的団体が認定するそば打ち技能・知識の最高位5段を取得しました。そば打ちは人間形成や仲間づくりの手段にも通じ、一つの“道”と言えます。多くの方にそば打ちの楽しさを知ってもらい、一緒に“そば道”を歩みたいですね。

にこにこ笑顔で
イタストラ大好き!



鈴木 大地くん 0歳
両親：雄介さん・明美さん (飯倉区)

アイドル
登場
No.212

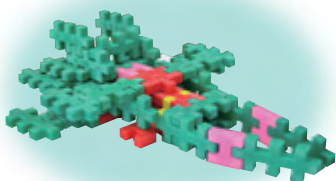
お子さんの写真に、氏名・生年月日・両親氏名・住所・電話番号・コメントを添え、郵送、持参またはメールでご応募ください。

みんなみて!みて!! アートギャラリー



いろいろなブロックを組み合わせ、ギラファノコギリクワガタを作ったよ。とがったアゴがかっこ良くできたでしょ。

須賀保育園
鵜澤大和くん



将来の夢「美容師」を思い浮かべて作成。お客さんが散髪して、気持ち良さそうにしているところがうまく表現できました。

匝瑳小6年
大木明莉さん



ヒップホップダンスでポーズを決めたシーンを表現。生き生きとした表情で踊っているところが一番のポイントです。

野田小6年
熱田悠初さん



クラブ・サークル紹介

須賀スポーツ少年団は、創立30年以上の伝統ある少年野球チームです。須賀小を始め、匝瑳小、野田小、栄小の他、横芝光町からも団員が集まり、27人で活動をしています。

子どもたちには、プレーに限らず基本的な礼節を学んでもらうため、あいさつにも重点を置き指導しています。当団へは広く子どもたちが集まっているので、自然と子ども同士のネットワークも広がり、練習や試合を通じて友情が深まっています。保護者の皆さんの理解、協力も厚く、夏にはバーベキューや花火などのレク活動も盛んに行っています。

体験参加は随時実施中。元気な子どもたち、集まれ！（コーチ・山崎）



Profile プロフィール

- ①設立 昭和56年
- ②年齢層 小学1年生～6年生
- ③活動日時 土・日曜・祝日の9時～17時
- ④活動場所 さざんか広場（のさかアリーナ隣り）、須賀小学校
- ⑤問い合わせ先 監督・岡田 ☎090-4178-8610

最優秀賞を受賞した滑方清さん（旭市）の作品「涼」



八重垣神社 祇園祭 フォトコンテスト

熱気伝わる力作揃う

第3回を迎えた「八重垣神社祇園祭フォトコンテスト」（市観光協会主催）。今年は56人から計151点の応募があり、いずれも熱気あふれる神輿を中心に祭り期間中の街の人たちの様子を写し撮った力作ばかり。厳正な審査の結果、次の通り入賞作品が決定されました。

◆入賞者（敬称略）

最優秀賞…滑方清（旭市） 優秀賞…磯部博之（匝瑳市）、南波靖一郎（匝瑳市）、木村茂男（市原市）、竹内朗（千葉市）、中根英治（埼玉県久喜市） 入選…菅谷きぬ子（匝瑳市）、相原光男（銚子市）、赤田秀子（市川市）、君塚義美（いすみ市）、小森治之（千葉市）、水島脩行（いすみ市）、瀬宮一二（東金市）、寺田義明（旭市）、伴野勝彦（千葉市）、宮崎昭光（東京都墨田区）

☎産業振興課商工観光室 ☎73-0089

匝瑳市から米、粟を献納

新嘗祭献穀献納式

平成27年度新嘗祭献穀献納式が10月23日、皇居内で行われ、千葉県代表として、大木一夫さん（吉田）と江波戸博さん（堀川）が、精米1升（1.8ℓ）、精粟5合（0.9ℓ）を天皇陛下に直接献納しました。

新嘗祭は、11月23日に天皇陛下がその年にとれた新穀を神々に備えて、農作物の収穫に感謝するとともに、自らもお召し上がりになる宮中恒例祭の一つ。それに先立って行われる「新嘗祭献穀献納式」は、新嘗祭で使用される新穀を、各都道府県から選ばれた農家が天皇陛下に直接献納するものです。



献穀した大木一夫さん・薫子さん夫妻（左）と、江波戸博さん・好子さん夫妻